

咲夜

（東方少女催眠）





☑️ 今回はマシバがた
てす...

とっかかりがぐツナレ
がたのと、イザ作業に
入ってから他の用事に
時間をとられるように...
結局また少し世界をうろ
てしました。体もムリが
効かなくなってきたので、次こそは

計画通りに
やまじど。

飛球in. →

。さうえば
「犬のように
なめさせる」とか
してなかつたな。
あつつかいとなめさせ
る事には、ずいぶんと
実感をいれたのだ
けれど。

・下着設定は
無いから無いでござるもの。
画面に写らない露毛
多い...今回も。

それでは、次は
例大祭やら、
あるいはコミケやら、
おイベントご会えが
ともそれぐらいの時間
に書店なりにおさめた
新刊にて、お会いにはしよ

☑️ もあれこれで後者編も
はじまりましたけれど、次はよおです。
キウトはたまされるお子様エロで盡か
エロい事と解らないまぢ持ち良く
でしょうか。ちなみ後者編のテーマは
“パロディ化”です。

2007 冬コミ
やっぱおぼろぎ

— 紅魔館



ぎんぎんとした

さ...さ...

さ...さ...

あ...

まなまな

ひんひんうご

タコや
イカの
足のような

あるいは
ムカデや
イモムシの
ような

それとも
へじやカエルの
ような

それは—

とじかなとまなへん、
しかじまじまじま

館内を埋め尽くして
しまっそうな程に、

次々と
湧き出して



それに—
近づいた
メイド妖精達は

その放つ淫気に
あてられたの
だろう



増大させられた
淫心に自分を
保つ事が出来ずに

それに穴という
穴にもへり
こまれ

それから
滴る
粘液をすすり



からみつく
そのおねえさんが
ままだよわ

あるいは
それに
すがりつくと
お



だからメイド長で
ある私は

お嬢様に何う
までもなく
これをどうにか
しなければならぬ

たふさぐ——



時には
彼女達同士で
からみ合わせられ

弄はれている



は...は...は...

なの...
なせ...!!

は...は...
は...は...

こんな事
してる場合
じゃないの...!!

と...と...
私...!!

止められ
ない...!!

は...は...
は...は...

手も...
時間も...!!

すごい
効き目だろ?
コレ



あなた...
一体何を...?

たいした
ヤツだな

そんなになって
まだ
それだけ理性が
保てるなんて

あ...っ

それとも

まだ足り
なかったか？



はみ...

何...何...
あ...あ...

カ...

え...

え...っ!?

あ...あ...

あ...あ...

ん...



はは...なんだ

やっぱり
限界だったなあ

な...
今の...何...?

頭...真っ白...

まるで...私が...
私の中から消えて
しまうような...っ





熱くて——
クラクラして——

ズン...

すごく敏感に
なってる——

ずっと小さく
イってるみたいで——



ズン...

私もそんなに
濃いのを直接
注射された事は
無いけど

すごいだろう？



なのに
全然足り
ないだろ？

ズン...

だめだ——
このままじゃ——



押しつぶ
される……

どう
かしらね……

必ず……
この場で……

せめて、
お嬢様だけ
でも——!!



ムダだぜ

え...っ!?

はっはっは

はっはっは
はっはっは
はっはっは

ばばば

ばばば

はっはっは
はっはっは
はっはっは

はっはっは



はっはっは

はっはっは
はっはっは

何...?
何...?

はっはっは

だ…っ
だめえ…っ

今…そんなふう…
そこ…っ
したらだめよ…っ!!

びんびん、
びんびん

私…
この子…

こんな…あそこ…
足で乱暴に
されて…

びんびん
びんびん

そんなに
強くしたら…っ

ま…っ
また…っ!!

そんな
事で…っ?

ぽ

ろっ

びんびん

びんびん
びんびん

咲夜

（東方少女催眠）



香霖堂



これで何回目
だろう
ここにきて
そこ

また...
こんな...



それでも私は
立ちまわること
もできる

目を背ける事も
耳をふさぐ事も
出来ない

こんな...
事を...



行為におよぶ
2人を

おちんちん
おいしくて...
気持ちよくて...

ただ見せつけ
られるのも

こっちが
イっちゃい
そうだけ...



彼の意に
そぐわない事は
出来ない

今の私の体は
何一つ

ん...



その後
意識を取り戻した
私を迎えたのは

いつも通りの
朝だった



あのぬるぬるは
影も形も無く

メイド妖精達は
いつも通りに
自分達の生活を
すごしている

本当にいつも
通りの朝だった



は…

はあ…

私の体を
除いては

は…



ん…

ただ…



やっちゃった……

はっ

はっ

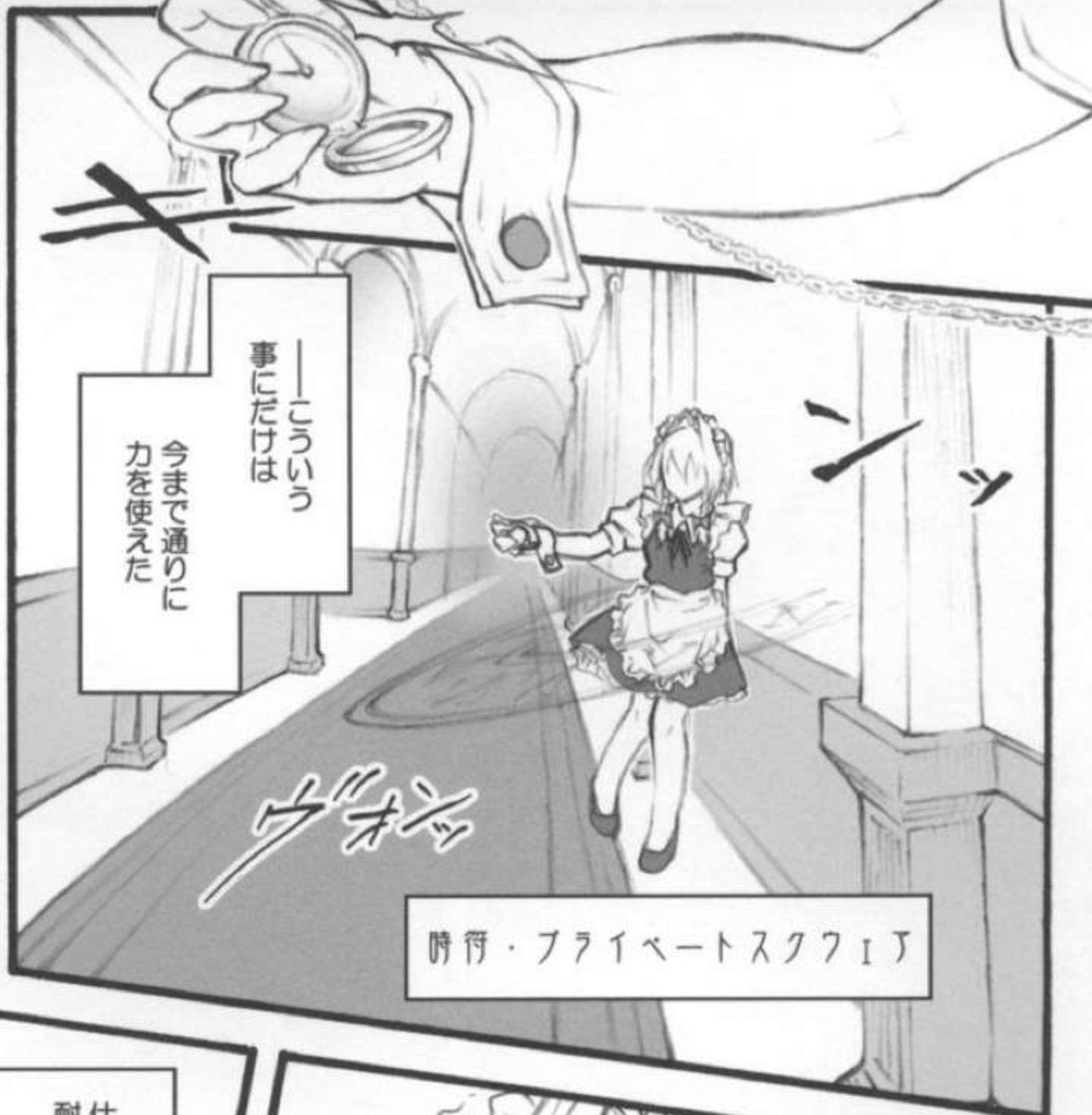
はっ

どンドン
あつくなつて

しまいは
あちこち
ビリビリ
してくる

ぎゅーぎゅー

はっ



——こういふ
事にだけは
今まで通りに
力を使えた

グッ

ズ

時符・プライベートスクウェア



仕事の途中でさえ
耐えられずに

こんなふうに
何度も何度も

パッパッ



時間を止めて
してしまった



また……
こんな所で……

歯車が壊れて
しまったかの
ように

昂ぶり
続ける体を

私はただ
慰めることしか
できなかった

ちゅー



停止した
時の中に隠れながら
それでも私は

そんな...
私...

目の前に
彼女達がいるのに
してやるどころ
状況と



美鈴や
お嬢様の
いる所で

してしまった
事もあった



今時を
再生したら
見られてしまう
という危うさだ

覚悟した

いくら
したいからって...
わんわん
この顔で...♡



私という
観衆の目に
晒されながら

それでも魔理沙は
従順に
奉仕を続け

そして彼を
絶頂に導いた

感受性が
豊かなのか
そうなるように
条件付けられて
いるのか

口の中に放出
されるだけで
彼女もまた
絶頂に達した



そうしながらも
彼のモノに
吸い付く事は忘れない

——そうして
いる事に
優越感を
感じている
ような目で
こちろを
見た





本当は…





ちゅ...

私は

魔理沙とは
違う

ん...

んっ

んっ

ちゅ...
ちゅ...
ちゅ...

んっ

こんなの...

いいにおいな
はずがないと思う

ふう...

おいしい
はずがないと思う

ちゅ...

ちゅ...



でも
ロリコン
それだから

んっ

んっ

んっ

んっ

私の体は...
私は

なんっ...っ!!

ちゅ...
ちゅ...
ちゅ...

鼻を
鳴らして

よだれを
たらしてしまっ

んっ

んっ

ん...

んっ

んっ

ちゅ...



とじつと...
私の体...

さっさと

さっさと

さっさと

さっさと

も...も

よろしくなで
もらおひじり
じい...う



口も
舌も...

さっさと
さっさと

さっさと
さっさと
さっさと
さっさと

さっさと
さっさと
さっさと
さっさと



そんなふう
勝手に動いて...

さっさと

さっさと
さっさと

勝手...

本当に勝手か...



さっさと

さっさと

さっさと

さっさと





い...っ
言っちゃった...っ!!

飲んだら...
かけらもたないぞ...

お主人様の
お茶を飲んで
...っ

お茶を飲んで
...っ

ちがうのに...っ
そんなふうに
呼んじゃだめなのに...っ

お主人様
の由り
来てください

咲夜は...
お主人様の
メイドですから...

咲夜の体...
お主人様の好きに
使っていただいて
かまいませんから...

私のお主人様は...っ
私が仕えるのは
お嬢様だけなのに...っ

私は...っ
お嬢様の
メイドなのに...っ



ブーン

ブーン

来たらあ...
ミキト様...
入って来たらあ...
♡♡♡

私...そんなこと
思っていないのっ

思いたく
ないのっ



ブーン

ガッ

ブーン

ブーン

頭...か...ちり
逃げられたいよ...
つかまえて...

でも、もう...

体が
そうじだが...
言葉で
出ちゅって

ブーン

口の中に
おじにまれ
ちゅった...♡

ガッ



おに...
おに...♡

苦くて臭くて
酸っぱくて...
気持ち悪いのに...

ガッ

ガッ

ガッ

そうなのよ
もう...

言ってる事と
思ってる事の
区別なんて
つかなく...

おに...
おに...♡

ガッ



「グニャー」

出た...♡
ご主人様の
出た...♡

「ん」
「ん」

私は
お嬢様の
メイドなの...

「お嬢様」
「お嬢様」
「お嬢様」

「お嬢様」
「お嬢様」
「お嬢様」
「お嬢様」



何度もいって...

また...

出されて...
飲みきれなくて...

「お嬢様」

「ん」
「ん」
「ん」

でもそのまま
出されて...

「お嬢様」
「お嬢様」
「お嬢様」

何度もいって...



め

お嬢様

「お嬢様」
「お嬢様」

「ん」

「ん」
「ん」

何度も
出されても
おいしい♡

何度も
出されるほど
おいしい♡

「お嬢様」
「お嬢様」

「ん」
「ん」



おいしい...
ご主人様の
おいしい♡

ご主人様って
呼ぶの

それだけでも
良くて...っ

「お嬢様」

「ん」
「ん」



精液田わぢし

らるらるらる
あさくわん

No No

あ……っ
は……っ♡

ずいご……♡

飲まされて……
かけられて……



いそ
じゅんじゅん
濁った白汁……

私の中の……
私も……
お嬢様も……

白いの……
いっば……♡

塗りつぶされ——!!

ア……

あれから…

ふん…

それでは…

報告させていただきます…

私の体はますます彼の望む通りに動くようになってしまった

私の体はもうすっかり彼のメイドになっている

それでも

今まで通りお館で働いているのも

あれから…

お館に帰る途中で3度イきました…

その間こんな物をつけていたのも

それから…

お館の仕事に集中していたのですけど…

その時の事をこつこつと事細かに報告しているのも

全て彼が望んだから

お嬢様に声をかけられてびっくりして…

それで一度イってしまいました…









「……」
「これだ……」
「男の力の……」
「ミキエ様の
おちんちん……」

感じちゃったら……
イっちゃったら……



「熱くて……
硬いのが……」
「なか……ゴリゴリ……
って……」

心も……体も……
まわって……
と……

くべつ……
つかなく
なっちゃう……



はぁん

気持ちいいって...
思っちゃう...

はぁん

ご主人様のおちんちんの形に...♡

変えられちゃう...

びん

びん



ぬるるるる...

そんなゴリゴリ
されたら...

咲夜のおまんこ...
けすれちゃう...

だめえ...

あ...

あ...♡

こんな...
気持ちいいの...

おまんこ...



「ニギハヤヒ様、
ご主人様あつ

ズブツ

ズブツ

咲夜のおまんこ
ゴリゴリして...

「ニギハヤヒ様の
おちんちんの
形にハマってます」

ご主人様の
気持ちいい
って...

「ニギハヤヒ様の
おまんこ
専用」

だめ...
そんな事...
言ったら...



ご主人様に
されるの……っ
気持ちよくて……

うれしいです……っ
うれしい……っ♡

こんな
気持ちいいの……っ

続けられ
たら……っ

ご主人様……っ

好き……っ
好きです……っ♡

ぐわぶぶ
ぐわぶぶ

言ってる事……っ
本当……っ

だい好き……っ♡

咲夜は……っ
ご主人様の
ことを……っ



カアアアッ

愛されて
います……っ♡♡

本当にそう
思える
よ……っ

な……っ♡!!



ビクッ

ギョウ

ビクッ

ご主人様...

ご主人様♡

ご主人様♡
ご主人様♡♡

ひゅる...

ひゅるるるる...



ご主人様♡...

ひゅる

ひゅる

...

トポン...

コホポ...



こんなふうに
されたら...



どうにも
出来ない...



声を出す所でも
物を食べる所でも
なくされて...



自分からは
できなくて...





いっしょに
ませ...



そろそろ使って
下さる時間だと
思っています...

お待ちして
いました...♡

咲夜はご主人様の
トイレですから...

精液でも...
おしっこでも...
おちんちんから
出るものは何でも...



おくちでも
おまんこでも
アナルでも

どの穴でも
飲み込み
ますから...

いっしょに...

いっしょに...

ご自由に注いで...
トイレの...咲夜に...
排泄してください...♡



ご主人様の...

出てくる... 出る... 出る...

中に...
どんどん
入ってきてる...

オヨオヨ...

飲んでます...
おしりの
穴で...

オヨオヨ...

ソソ...

ソソ...

ご主人様の
おしり...
全部
飲みます...

おたた... たた...



咲夜が
間違っていました…

もう二度と
ご主人様には
口ごたえ
いたしません…

カクカク…

私何か
そそろうを
するよ

地下室で
ご主人様に
お仕置きを
受ける

ガクガク…

カクカク…

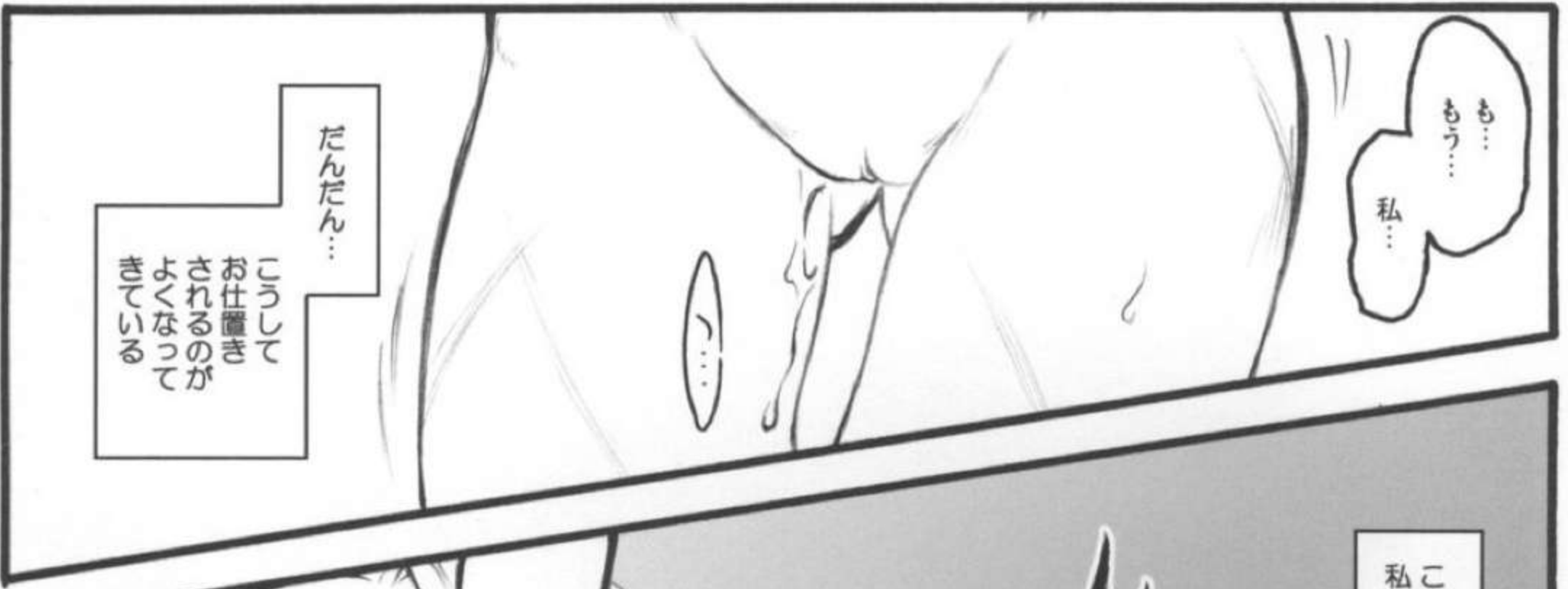


ポコヤツ
カクカク…

カクカク
カクカク
カクカク
カクカク



もう…
ゆるして下さい
ご主人様…



も...
もう...
私...

だんだん...

こじこじ
お仕置き
されるのが
よくなつて
きつこる



このおもちゃ
私...

ほいっ



うわ...
おうわ...

うわ...
うわ...

うわ...
うわ...

...FUTU...
UWA...
UWA...



—どうしたんだい
足が止まって
いるよ

時間を止めて
いるからって…



プライベート
スクワァア
発動中

ん…
わう…

こんな…
人間がたくさん
いる場所で…

こんな…
明るいうち
からなんて…



人間の里



わ…
わう…っ



じゃあ
ちよんど
いいから
今日は
そこに
しようか



んっ

ノノノノノ

後で私が
ひっかけたの
みんなに
見られちゃう
のに...



こんな所で
したら...

の...の



っ...っ
♡

っ...っ

ぷるぷる...

私...
ご主人様の
メイドなのに...っ
これじゃ...
ただの犬...っ
雌犬みたい...っ

はしはし
はしはし

んんん...
んんん...

でも...
おまじの
通り...
すねぬ...っ

ごほうび
もらえらって
思ったら...

ぷんしゃああああ



こんな場所で
されて…
イカされたら
ダメなの…っ

あんな
あんな

ちゅっ

びんびん

びんびん

だめ…っ
だめなの…っ



びんびん
びんびん

でも…っ
うれしい…っ
こぼっぴ
うれしい…っ



こんなに
気持ち
いいの…っ

ガマンできる
わけない…っ

びんびん

びんびん
びんびん

びんびん

びんびん

びんびん



こんな...
恥ずかしい...
たまらないの...っ

私...っ
こんなの...っ

じゅわん

ずわん

ずわん

あう...う
うわん...っ



気持ち...
良くて...っ

人がたくさん
いる場所で...っ
真っ昼間から
犬みたいに
鳴いて...

ずんずん

ずん

キキキキ

キキキキ
キキキキ

は...か...しい...の...が
気...持...ち...よ...く...て...っ

い...っ...ち...や...じ...っ...っ

だめ…っ
だめえ…っ

イっちゃったら
ワケわかんなく
なってる…

時間…
止めてるの…
解けちゃうの…っ

びくびく…

あんっ
あうっ

ズッ

ズッ

ズッ

あ…っ？

ゾク
ゾク…

解けたら
こうしてるの…
たかさんの人間に
見られちゃうの…っ

やだ…っ
今…私…っ

あ…っ

あ…っ

あ…っ







本当に
こんな場所で…

たくさんの人に
見られながら…っ

びる…

びる…



びる…

やだ…っ
私…っ

ぽっ…

ぽっ…



わたし…

もう…
明日から
どうやって…

びる…

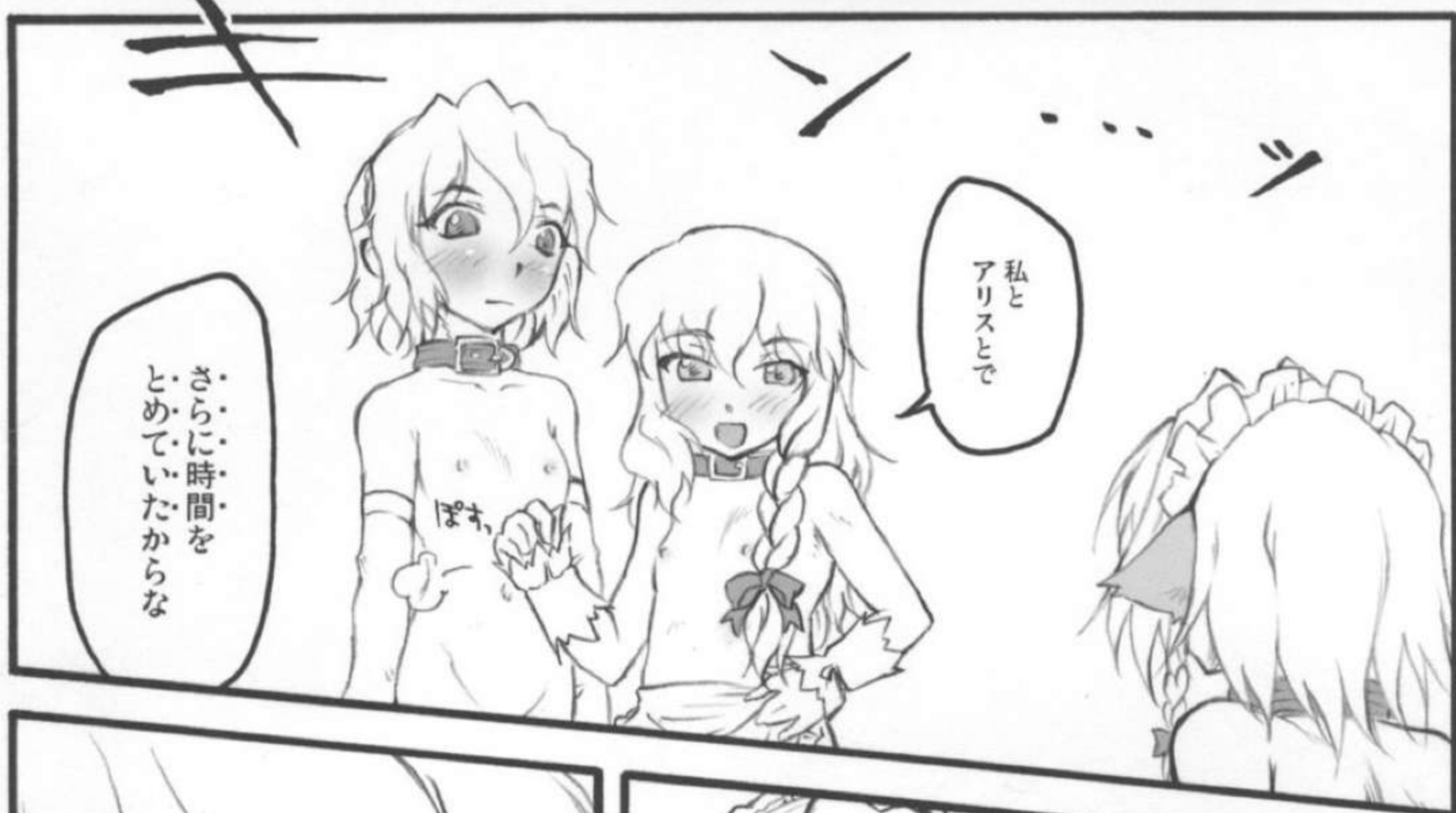
あれ…っ



はは
大丈夫だぜ

あ…?

あなた
たち



さら・に・時・間・を
と・め・て・い・た・か・ら・な

私と
アリスとで



あなた
今



直接注入するのって
本当にすごい
効き目のね

それにしても

ずいっ



時・間・が
止・め・ら・れ・な・く
な・っ・ち・や・っ・た・の・で・も

イってなかった？

あ

そう…だ…
私…今…

見られると
思っ…
ぞくぞくしてた…

私…こんな…

ご主人様でも
なんでもない
人間たちに…

恥ずかしい所
見られると
思っ…

イってた…

わ…

カキヤ…

わん…っ

私…
雌犬…

もう…
メイドなんか
じゃなくて

ただの
雌犬に
なっちゃった
よお…

To Be Continued ... ?